



第185号

発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ② 芝蘭会、初の合同同窓会
- ③ 校友会・KMS・FUNDだより
- ④ 退任あいさつ
- ⑤ 支部だより 近畿北・神戸
- ⑥ 支部だより 和歌山・東京
- ⑦ 人事異動・会員訃報
- ⑧

芝蘭会会長就任あいさつ

京都大学大学院医学研究科長・医学部長

上本 伸二



まず、大学・附属病院と関係病院の発展的継続のために最も重要なのは人材の確保ですが、京都大学医学部は全国トップクラスの優秀な入学者に恵まれ、医学研究科大学院は毎年190名前後の入学者を迎えており、附属病院と関係病院の人材供給は順調です。特に大学院入学者の確保は関係病院での優秀な人材確保(後期研修医)と密接につながっており、関係病院の努力に感謝しております。今後は、大学院を卒業した優秀な専門医が順調に関係病院へ赴任する好循環を確実にします。その意味でも大学・附属病院と関係病院のより緊密な関係強化を相互に推進していく努力の継続が必要であります。一方、基礎医学研究者の減少が京都大学でも大きな問題でありましたが、医学部MD・PhDコースの取り組みとMD研究者養成プロジェクト(京都大学、東京大学、大阪大学、名古屋大学の共同プロジェクト)の活用によ

つて、徐々にではあります。基礎医学研究に進んでいく若者が増加してきています。今後は人間健康医学科の改革に關しましては、また別の機会にご報告申し上げます。以上のように京都大学医学研究科では若い人材の循環に關しては順調に展開していますが、大学での教員ポストの削減が大きな継続問題となっております。これは全国の国立大学法人全体の共通問題であり、京都大学においても運営費交付金は毎年1.3%ずつ減少していく構図が続いており、交付金減少は京都大学の教員ポストの減少につながります。今回の任務は想定していなかった事態ではあります。教授会の皆様のご支援をいただいた事実を大変な光栄と受け止めて、微力ながら医学研究科長・医学部長としての責務を果たしていく所存です。芝蘭会会員の皆様におかれましては、これまで以上のご助言とご支援を心からお願い申し上げます。

このたびは医学研究科長・医学部長を命ぜられ、平成26年10月1日からその任にあたっております上本伸二でございます。平成27年4月1日から芝蘭会会長に就任いたしましたので、会員の皆様にごあいさつ申し上げます。私の芝蘭会会長としての最初の仕事は、4月11日にホテルグランヴィア京都で開催いたしました芝蘭会臨時総会でございます。多数の会員の皆様にご参集いただきまして大変ありがたございました。井村裕夫会頭のもとで開催された第29回日本医学会総会2015関西を盛り上げようと意図して開催した臨時総会ですが、全国から394名のご参加をいただき大変な盛会でした。皆様には医学会総会にもご参加いただきまして、おかげさまで日本医学会総会2015関西は心に残る素晴らしい学術集会となり、重ねて感謝申し上げます。私は本学医学部昭和56年卒で、外科学講座に入局いたしました。昭和57年から4年間兵庫県立塚口病院で外科研修を受け昭和61年から大学院(外科学専攻で第2外科所

人材確保の好循環、確実に

関係病院と連携強化推進

基礎医学研究者増やす

院)をはさんで肝移植の臨床に従事した後、平成13年から三重大学第1外科教授に就任し、大学病院での肝胆脾外科と肝移植の診療と研究に従事する傍ら三重県地域医療連携や卒前卒後研修を担当してまいりました。平成18年に本医学部に戻り、新しく再編された外科学講座の中の肝胆脾・移植外科学分野を担当するよう命ぜられ現在に至っております。医学研究科長業務も半年を経過し、少しずつ京都大学医学研究科の現状も見えてきました。また、役職上、京都大学本部の会議や懇談会に出席する機会も多く、京都大学全体の方向性なども少しご紹介できればと思います。

属)に進学いたしました。当時の第2外科は小澤和恵教授のもとで肝移植の研究が盛んであり、大学院卒業後の平成2年から

平成27年度の受章者

春の叙勲

瑞宝中綬章

山内 脩 (昭34年薬学科卒)
名古屋大学名誉教授

佐古 伊康 (昭36年卒)
元静岡県立総合病院長

1月30日(金)に、京大病院IPS細胞・再生医学研究会を芝蘭会館にて開催しました。同研究会は、当院におけるIPS細胞、ES細胞及び体性幹細胞等を用いた再生医学研究の向上並びに成果の普及を図り、ひいては医療の発展に貢献することを目的として平成21年11月に発足したものです。第11回目となる今回の研究会では、学内外から医療関係者等100名余りの参加がありました。研究会では、三嶋理晃病院長の開会あいさつの後、田中正幸氏(武田薬品工業株式会社 大阪学術グループ)より「難治性逆流性食道炎もふまえた今後の治療戦略」について一般講演が行われ、齋藤潤准教授(京都大

一般、学術、特別の3講演

学IPS細胞研究所 臨床応用研究部門)より「疾患IPS細胞を用いた血液疾患の病態解析」について、西小森隆太教授(京都大学医学部附属病院小児科)より「疾患特異的IPS細胞を用いたメンデル型遺伝疾患の病態解析について」CINCA症候群の骨幹端過形成をとりあげて」について、妻木範行教授(京都大学IPS細胞研究所 増殖分化機構研究部門)より「IPS細胞技術を用いた骨系統疾患研究」について学術講演が行われました。引き続き、西中村隆一教授(熊本大学発生医学研究所 腎臓発生分野)より「発生学に基づいた3次元腎臓組織の試験管内構築」について特別講演が行われました。

学内外から100人参加

第11回京大病院IPS細胞・再生医学研究会を開催



西中村教授による特別講演



開会あいさつを行う三嶋病院長

芝蘭会初の合同同窓会

394人が参加、盛大に

平成27年4月11日(土)13日まで京都で開催の『第29回日本医学会総会関西』に呼応して4月11日(土)の夕方、ホテルグランヴィア京都の「源氏の間」に、芝蘭会会員(昭和19年卒業生から平成26年卒業生、及び現役学生56名)及び校友会会員等394名が一堂に会し、盛大に芝蘭会合同同窓会(臨時総会)が催されました。

世代を超えて旧交温める

まず、芝蘭会の西祥太郎副会長の司会により芝蘭会臨時総会が開催され、湊長博前会長のあいさつ、新旧会長の交代式(上本伸二新会長から湊長博前会長及び三嶋理晃前副会長へ花束贈呈)、上本伸二新会長のごあいさつが行われました。

その後、医学部音楽部の学生さんが奏でる弦楽四重奏を聞きながらの歓談、照明が落とされた会場に心に響く拍子木の音と共に口上を述べながら祇園の芸妓さんによる「手打ち」により、合同同窓会が開会されました。

合同同窓会は、ロザン(漫才師)の司会により進行し、まず最新の映像技術を駆使したプロジェクトシモンピング(同窓生の絆、若手研究者への激励をテーマとした映像)が舞台上で放映され、引き続き井村裕夫会頭のごあいさつ、本庶佑副会頭の乾杯の発声で懇談

ロザン司会 舞妓の祝舞、クイズも

にうつり、上七軒の舞妓さんによる祝舞「雛鶴三番叟」を鑑賞しながら、各参加者は、世代を超えて旧交を温めるとともに懇談を深めていました。

合同同窓会が盛り上がる中、ロザンの軽妙な司会により、「京大医学部のこと……もっと『知』とこー」というテーマで、「お楽しみクイズ大会」を実施。年代別の回答者4名(植田謙次郎氏(昭和32年卒)、邊見公雄氏(昭和43年卒)、西英一郎氏(平成2年卒)、藤原裕也氏(3回生)が、壇上に上がり、「芝蘭会の発足したのは何年か？」等5問のクイズに笑いを誘いながらの名答・珍答の続出で、邊見公雄氏が見事に優勝賞品「京大オリジナルグッズセット」をゲットされました。

その後、この合同同窓会のために制作された映像作品『京都大学医学部100年の軌跡と未来に向けて』を鑑賞しました。この作品は、本庶佑名誉教授と山中伸也教授のインタビュー、京都大学医学部及び芝蘭会の歴史を振り返り、歴史と伝統によって築き上げられた今日の活躍の紹介等で構成され、本庶名誉教授からは「研究の基盤確立のためには、自己財源の確保、とりわけ同窓生の寄附の重要性」、山中教授からは、「若手研究者は積極的に海外へ出ていくことの重要性」が述べられました。

中締めのごあいさつとして、稲垣暢也芝蘭会副会長のあいさつが行われ、明治39年以来初めての合同同窓会は、和やかな雰囲気の下、万歳三唱してお開きとなりました。

合同同窓会が、盛会裏に執り行われたことにつきましては、芝蘭会会員の皆様の御協力のお蔭と、深く感謝いたします。

■合同同窓会実行委員会委員長 相馬俊臣(昭和40年卒)

舞妓さんによる鮮やかな演奏

芝蘭会臨時総会の新旧会長の交代式で花束を贈呈



芝蘭会 臨時総会・評議員会・理事会を開催

平成27年3月21日(土)芝蘭会館別館において芝蘭会臨時総会・評議員会および理事会が開催された。

議案は、(1)平成27年度事業計画及び収支予算について、(2)会長及び副会長の選任について、(3)「第29回日本医学会総会2015関西」開催に係る合同同窓会(臨時総会)の開催について、(4)その他についてで、議案(1)については、平成27年度事業計画(案)及び収支予算(案)について説明があり、原案どおり承認された。

議案(2)については、臨時総会において、理事の湊長博氏、三嶋理晃氏の辞任に伴い、後任に上本伸二氏、稲垣暢也氏を平成27年3月21日付で理事に選任することが承

4 議案を承認

認された。

また、理事会では、臨時総会において理事に選任された上本伸二氏を会長に、稲垣暢也氏を副会長に平成27年4月1日付で選任することが承認された。

議案(3)については、「第29回日本医学会総会2015関西」開催に呼応して実施する合同同窓会(臨時総会)の開催について、6回の実行委員会で検討した経過について説明があり、承認された。

議案(4)については、2件あり、1件目は、湊会長より平成26年度の決算書類並びに事業報告を審議するための総会を平成27年6月6日(土)に開催することが諮られ、異議なく承認された。2件目は、臨時



芝蘭会別館で開かれた臨時総会・評議員会・理事会

総会、評議員会、理事会の議事録の署名人について説明があり、審議の後、異議なく承認された。

議案の審議終了後、湊会長から報告事項が3件あり、1件目は、「基礎医学記念講堂・医学部資料館」の募金状況等についての報告があ

り、了承された。2件目は、京大病院入院患者の家族の芝蘭会館別館の客室使用状況についての報告があり、了承された。3件目は、京都大学医学部教育研究支援基金の募金状況についての報告があり、了承された。

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学部学生会館内
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

平成27年の京都大学医学部教育研究支援基金(KMS・FUND)の委員長を仰せつかりました。病理診断学の羽賀と申します。このたび、芝蘭会報にて芝蘭会員・校友会の皆様にこあいさつ申し上げるに当たり、改めてこの基金の趣意書を読み返し、これまでのKMS・FUNDの歩みと今後の課題を私なりにまとめてみました。

京都大学における学習・研修環境の整備にも、学生の父母や関係者が積極的に関与できる基盤が整備されたものと理解しています。

ところで私はちょうど30年前、新人生でした。当時私が所属した医学部のクラブ(水泳部)には、専用の部室がなく、陸上

ベンチの塗り替えを始めとした共有スペースの修繕や入室管理システムの新規設置も予定しています。また学生会館とは別に、医学部I棟改修整備に関連して、学生の談話スペース整備への一部負担が予定されています。

本基金のもう一つの活動は教育・研究活動の支援です。平成25年より医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)に表彰状、賞金(1名当たり20万円)を出しています。今後も引き続き若手研究者の支援を行います。京都大学医学部の使命である次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成の一端を支えることを期待しています。

羽賀 博典

KMS・FUND委員長
病理診断学 教授



あるとはいえ、遠方への交通費・宿泊費には少なくない学生の負担が生じています。KMS・FUNDとして、臨床実習支援のための一時金を検討しているところですが、この部分については芝蘭会にも援助をお願いする等のさらなる対策が必要と考えています。

京都大学医学部には、同窓会としての芝蘭会があります。その発足は第1回の卒業式が行われた3年後である明治39年(1906年)に遡ることができる長い歴史を誇る団体です。一方、医学部校友会とKMS・FUNDの設立は平成19年(2007年)と比較的最近のことです。医学部校友会は「京都大学医学部の教育の充実と研究の発展、あわせて会員及び学生の相互親睦を図ること」を目的として、医学部・医学研究科の学生・院生の父母などの関係者で組織するもので、会報や校友会総会・入学式・卒業式など行事を通じて学生・会員・教職員の交流親睦を行っています。

また、KMS・FUNDは「学生の学習や研修活動の教育支援、大学院生の研究活動などの研究支援」を主目的に設立されたとあります。校友会・KMS・FUNDの設立により、国立大学法人である

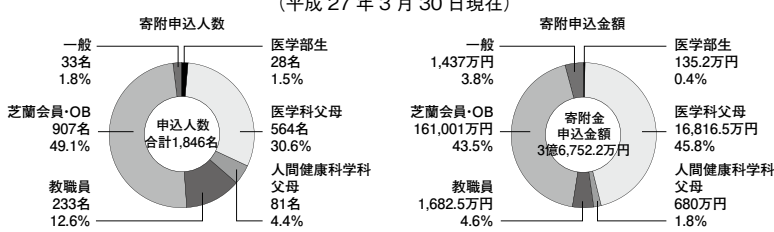
学生会館 さらに充実へ

支援・寄附 ご協力を

約3億円の建設費は、決して文科省や大学本部が予算を割り当てたものではなく、すべて芝蘭会・校友会・関係の方々の寄附によるものです。学生会館は平成22年(2010年)にオープンしましたが、施設の充実・運営には引き続き皆様方からの援助が必要です。すでにほとんどの学生にとつては、入学時から存在する、当たり前の施設となつていますが、医学部学生会館が多くの人からの寄附金で建設されたこと、かつての医学部生にはそのような充実した施設を利用する機会がなかったことなどを、今一度思い起こしてもらえればと思います。

平成27年以降の事業としては、引き続き学生会館の環境整備があります。まだまだ備品は十分でない一方で、カーペットの交換を始め清掃費用が必要で、時計塔・

寄附申し込み人数と金額
(平成27年3月30日現在)



医学進歩へ身を粉に

今日は私たち卒業生のために、このような心のこもった祝賀会を催していただき、誠にありがとうございます。また、ご多忙中にもかかわらず、ご出席いただきましたご来賓、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。先ほどは皆様から温かいお言葉をいただき、今一度感謝の気持ちがこみ上げると共に、自分たちの担う責任の重さを痛感致しました。

さて、今こうして、正装に身を包んだ同回生として、京都大学の校風のもとでそれぞれが自由に学生生活を謳歌しながらも、

ただ、この個性的な同回生の中で間違いなく皆が共有しているものがあります。それは、「京都大学に対する誇りそして感謝」です。京都大学は私たちが勉学に励む上で最高の環境を与えてくれました。一人一人がある分野の第一人者である京都大学の先生方は、京大医学部生としての使命を身で教えて下さいます。同回生の仲間たちは、京都大学の校風のもとでそれぞれが自由に学生生活を謳歌しながらも、

世のために力発揮して。校友会委員 市岡ようこ。長い冬が明け、春の陽気とやわらかな日差しを感じたときに、6年前の4月、息子が京都大学医学部へ入学した時のことを思い出します。去る平成27年3月24日に無事卒業を迎えましたが、今後を息子よりも母親の私の方が寂しく感じているかもしれません。卒業生の皆様、世のため人のためにその持てる力を存分にふるって活躍されることをお祈り申し上げます。

6年間ご指導くださりました先生方、大学関係者の皆様には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業生代表 (自治委員) 門場 啓一郎



あいさつをする門場さん

向き合うと、初めてこの場に足を踏み入れた入学式の日のことが思い出されます。歴史の街、文化の街、そして学問の街である京都、この街で学びに努めることが出来る喜びに皆浮き足立っていました。それから長い月日が経ち、皆がそれぞれの道で大きな成長を遂げてきました。勉強、研究、留学、課外活動、アルバイトなどに取り組み中で様々な能力を培い、より一層個性豊かで魅力的な集団になったと確信しています。

非常に優秀であり、全員が尊敬に値する同士でした。また、学生会館や図書館を始めとする構内の設備は、学問を深める上で十分すぎるものでした。このような京都大学医学部の環境に感謝すると共に、その一員としての誇りを感じずにはいられません。

これから私たちは二十一世紀という時代のまっただ中で医学に携わっていきます。IPS細胞の作製を始めとする様々な業績が時々刻々と生まれ、二十一世紀の医学は文字通り分単位に進歩を見せています。ただ一方で、医学に対して向けられる目は年々厳しくなっているのが現状です。医学に対する信頼を根底から揺るがしかねない不祥事の数々、そして人類を未曾有の恐怖に陥れた新興感染症の流行、これらは人々の不安に拍車をかけるものでした。一つ

の偉業よりも一つの汚点がクローズアップされる現代、そんな世の中で医学を背負っていくというのは、今まで以上に大きな責任を伴うでしょう。しかし、私たち卒業生はその責任から目を背けることなく、「医学の進歩」そして「人々の幸せ」のために身を粉にする覚悟ができています。二十一世紀が医学に対する希望感謝で満ちあふれる時代になるよう誠心誠意貢献してまいります。

最後になりましたが、ご指導いただいた先生方、学生生活を支えて下さった職員の皆様、そして姿は見えずとも常に私たちを見守ってくれた家族に心より感謝致します。本日はあいにくの寒空ですが、四月にはぬくもりに包まれた満開の桜が私たちの門出を祝ってくれるでしょう。皆様におかれましても温かく私たちを送り出して頂ければ幸いです。そして、これから私たち二十一世紀という時代のまっただ中で医学に携わっていきます。IPS細胞の作製を始めとする様々な業績が時々刻々と生まれ、二十一世紀の医学は文字通り分単位に進歩を見せています。ただ一方で、医学に対して向

京都大学医学部校友会 第8回総会・講演会

平成27年9月26日(土)
総会 13:00 ~ 13:40 (芝蘭会館 稲盛ホール)
講演会 13:50 ~ 15:10 (各40分)
京都大学大学院医学研究科
形態形成機構学 萩原正敏 教授
糖尿病・内分泌・栄養内科学 稲垣暢也 教授
特別講演会 15:30 ~ 16:30
理化学研究所 高橋政代 先生
懇親パーティー 17:00 ~ 18:30 (芝蘭会館 山内ホール)
詳しい内容は次回お知らせします。

和やかに入学祝賀会
4月7日(火) 京都市勧業館みやこめっせで挙行された27年度京都大学入学式の後、恒例の京都大学医学部校友会が主催する「入学祝賀会」が芝蘭会館山内ホールで開催された。
医学研究科長 上本伸二教授の祝辞、KMS
IFUND委員会委員 木原正博教授によるKMS・FUNDと校友会の趣意説明、校友会 土井赴会長のあいさつ等が続いて、出席教授からのお祝いの言葉があり、和やかな祝賀会となった。出席者数は241人(教授11人、新入生111人、父母119人)であった。

退任あいさつ

生理学研究を楽しむ

神経生物学教授

大森 治紀



私は平成3年以来二十数年間にわたり、医学部・医学研究科にはお世話になりました。この間、大学の様々な責務も果たしてまいりました。色々思い出深いこともあるのですが、中でも私が全学の入試委員会の副委員長をしておりまして2000年頃の入学試験に

おきまして、古典で出題ミスがあり、記者会見が開かれました。この委員会は総長が委員長であり、試験問題の作成と取りまとめが副委員長の役目であります。したがって副委員長以下は匿名が原則なのですが、何らかの事情で私が記者会見に引つ張り出されました。TVカメラもありニュースにも登場して、これは、なかなか異色でおもしろい体験でした。

さて、私が担当してまいりました生理学という学問分野は、極めて古い学問であります。生命機能を追

大変残念な事には、試験をしますと半数近い学生が1度では合格できない科目でもあります。

そうした科目を担当する一方で、私自身は聴覚機能を受容器細胞である有毛細胞から、脳幹そして最近では大脳皮質に至る神経機構を細胞レベル、神経回路レベルで詳細に明らかにしてきました。数年に一人程度は京都大学医学部の卒業生が来てくれました。さらに他大学の医学部卒業生あるいは医学部以外の京都大学および他大学の卒業生達が研究に参加してくれました。一人一人に特色があり総じて優秀な人たちでしたので、彼らとともに研究生活を楽しむことができました。

ニワトリを用いて聴覚の研究をしてきましたが、鳥

類を用いた聴覚の研究は結果としてほ乳類よりも精密な実験研究を可能にしてくれました。音源定位にいたる細胞機構である音の時間情報に対する同時検出機構が、周波数帯域に依りてシナプスおよび神経細胞が独特の構造をもち、機能分化を伴った幾重もの最適化によって精密に実現される事を一つ一つ証明する事ができました。さらに抑制性の神経回路機構が加わる事で音の強弱による影響を見事に補正していることなど、動物の行う音源定位行動を実現する上で重要な、左右の聴覚情報の同時検出処理機構を明らかにできました。

さらにより高次の脳機能の解明を目指した新しい測光電極法も開発できまし

国内外の健康づくりに参加

公衆衛生学教授 大学院医学研究科
健康政策・国際保健学分野教授

中原 俊隆



京都大学医学部における

私の研究面および社会的な貢献としては、たばこ対策を科学的に扱う国際学会 ISPTID (International Society for the Prevention of Tobacco Induced Diseases) をドイツ・アメリカ・カナダなどの研究者とともに設立し、20年に学術集会を京都において開催しました。また、JICAによるフイリピン家族計画・母子保健プロジェクトに国内委員長として関わりました。ヘルスプロモーションについては、各種の調査研究を行うとともに、京都市・京都府などの健康づくり活動に関わってきました。

また、WHOが戦後まもなく設立した IAHPE (ヘルスプロモーション・健康教育国際連合、本部・パリ) の副会長として国際的な NGO 活動に参加し、APHPE (アジア太平洋ヘルスプロモーション・健康教育国際学会) の第1回を日本で、第2回を台湾で開催し、大成功を収めました。建築衛生では、建築環境衛生管理に関する国家試験委員を十数年にわたって務め、また、気候変動問題との関連で WHO 主催の国

際会議に招聘されました。WEPHA (世界公衆衛生連盟、本部・ジュネーブ) は全世界の公衆衛生活動の中心となっている NGO ですが、その執行理事として積極的に参加し、また5年ごとにアジア各国の公衆衛生関係者を集めて開かれる Meeting of Public Health Associations in Asia では組織委員長を4回務めました。国内学会では、日本公衆衛生学会など多数の全国学会の会長を務めました。また、医師国家試験委員や国および地方の各種の審議会の委員や研究費の評価委員などを務めました。

最後に、公衆衛生大学院としての社会健康医学系専攻は、発足時、アメリカの School of Public Health の認定基準に準拠して教授の配置を決めました。健康政策分野は必須であり、医師国家試験の必修科目とされている公衆衛生学の中心をなすものです。わが国における完全な公衆衛生大学院として当健康政策・国際保健学分野が、ますます発展することを祈念しています。

医工連携強化が今後の課題

学際融合教育研究推進
センター特任教授

福山 秀直



脳機能総合研究センター、脳機能イメージング領域の福山秀直です。3月31日をもって退職します。21世紀最初の2001年1月1日に着任以来、14年にわたり、ご支援いただき感謝しております。高知、島

根、福井などの支部にも、支部総会にもお邪魔して歓待していただきました。着任後、すぐに当時としては未完成な3T MRI が概算要求で認められ、その後、MRI 関連の仕事が急に増えて、神経内科、脳外科、精神科の先生方とも交流が広がりました。現在は、基幹病院には、3T MRI は、常識的に導入され稼働しているところですが、当時は、不安定できちんと動くか

随分不安でした。しかし、多くの神経科学に関連した研究を共同で行う環境に恵まれ、楽しく過ごすことができました。さらに、3年前には、7T の MRI の予算が措置されたのですが、これもまた円安のおかげで、機器メーカーとのやりとりで、最後はドイツと携帯電話で交渉するというはめになりました。本年4月以降、順調にいけば、秋には撮像装置として使えるもの

になる予定です。空間分解能が0.2mmになるもので、大脳皮質を画像としてみることが可能になり、これまでとは異次元の画像診断ができるものです。

このような経緯もあり、井村先生が会頭をされる日本医学会総会関西2015で、新しい医工連携の話をする事になりました。日本の医学では生物学的研究は強いのですが、機器になると研究用も臨床用も輸入品ばかりで、日本でパテントを持つていても、売れる機器は海外のものという状況です。これを改善するためにも、医学の中で工学を教える、医工連携を強めることが今後の課題です。現在、リ

ーディング大学院という文科省のプログラムで、このコーディネーターをしているのですが、少なくともあと3年は続くプログラムで、医科学、人間健康科学系専攻、薬学、工学の修士から教えており、今後が期待されるものです。

医学は、移植なども含め、日々進歩しています。医学に工学の知識を持ち込んで研究する、Biomedical engineering はこれからの重要なキーの一つになるものと期待しています。

芝蘭会の先生方、医学研究科の御支援を得ることができれば、さらに発展が期待されるものと思っています。今後ともよろしくお願ひします。

京大医学部における公衆衛生学教室および公衆衛生学教室により行われてきましたが、私が公衆衛生学教授として着任した平成9年の時点では衛生学教授の後任が選ばれない状態となっていたため、衛生学・公衆衛生学を担う唯一の教授となり、特に教育面では講義・実習を含め年間300時間以上に及ぶデューティーがあり、現在とは比べものにならない重圧がかかっていたのを懐かしく思い出しています。

学生実習では長い歴史を持つ調査研究・学会発表形式の他に、ケースメソッドを導入しました。平成12年には医学研究科に社会健康医学系専攻が設置され、幾度かの組織変更を経て、現在では健康政策・国際保健学分野の教授となつてい

ます。

私の研究面および社会的な貢献としては、たばこ対策を科学的に扱う国際学会 ISPTID (International Society for the Prevention of Tobacco Induced Diseases) をドイツ・アメリカ・カナダなどの研究者とともに設立し、20年に学術集会を京都において開催しました。また、JICAによるフイリピン家族計画・母子保健プロジェクトに国内委員長として関わりました。ヘルスプロモーションについては、各種の調査研究を行うとともに、京都市・京都府などの健康づくり活動に関わってきました。

また、WHOが戦後まもなく設立した IAHPE (ヘルスプロモーション・健康教育国際連合、本部・パリ) の副会長として国際的な NGO 活動に参加し、APHPE (アジア太平洋ヘルスプロモーション・健康教育国際学会) の第1回を日本で、第2回を台湾で開催し、大成功を収めました。建築衛生では、建築環境衛生管理に関する国家試験委員を十数年にわたって務め、また、気候変動問題との関連で WHO 主催の国

最近、芝蘭会員の方々へ芝蘭会員または京大医学部事務職員の名前をかたって、個人情報(住所、電話番号等)を聞き出そうとする不審な問い合わせの電話があるということを会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございませんので、くれぐれもご注意くださいようお願いいたします。

なお、芝蘭会では会員の方から住所変更等のご連絡がない限り、事務局からはお問い合わせはいたしておりません。ご不審なことがありましたら、芝蘭会事務局までご連絡ください。

芝蘭会 事務局 TEL: 075-751-2713 FAX: 075-752-4015

【ご 注 意】

『忘己利他』の精神忘れずに

滋賀県立リハビリテーション
センター所長

野本 慎一



本年3月31日をもって、人間健康科学系専攻を定年退職しました野本慎一です。在職中は公私にわたり格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

平成18年に、それまでの心臓血管外科領域の臨床の現場から一転して、コメディカルスタッフの養成という職に就きましたが、当時は京都大学医療技術短期大学部が4年制の保健学科に変わったばかりで、第1期

生の卒業生も輩出されてい

ませんでした。更に平成19年には、保健学科は人間健康科学科に名称変更されると共に、大学院が設置されました。同時期に学科の制度変更のみならず建物の耐震改修も行われ、講義場所は学外を含めて日々変更されるというめまぐるしい変化の中で教育と研究を行わざるを得ませんでした。

工事が終了して落ち着く間もない平成21年に杉浦広一、昭子両氏からいただいた地域医療に貢献したいという篤い申し出を、人間健康科学系専攻内に「杉浦地域医療研究センター」設立という形で実現できましたのも、その仲介者としてまさに感慨深いものがありました。Patient-centricityとい

した。

このセンターを利用して、従来結びつきのなかった工学研究科都市社会工学専攻と医学研究科人間健康科学系専攻が協働して人材育成を行う、学際領域「安寧の都市ユニット」が立ち上がりましたが、その企画から運営まで関与して参りました。健康・医療を考えたまちづくりを研究するという貴重な経験を得たことが、病院医療から在宅中心の医療へとという超高齢社会におけるパラダイムシフトの中で、情報通信技術を活用した「在宅医療・介護連携システム（電子連絡ノート）」を、私どもが構築するきっかけに繋がりました。

老年医学の重要性再認識を

国立研究開発法人国立長寿センター副院長
老年学・社会科学研究センター長

荒井 秀典



平成26年12月31日を持ちまして京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退任し、平成27年1月1日より国立研究開発法人国立長寿医療研究センター副院長として着任いたしました。近未来型人間健康科学融合ユニットという働き場所を与えていただき、自分の研究分野である高齢者医療に関して、看護、検査技術、リハビリ

多くの方々に大変お世話になりました。誌上をお借りして関係各位に深くお礼を申し上げます。その結果、研究の方向性も大きく変わり、サルコペニア、フレイルといった近年の老年医学のホットなテーマについて多くの成果をあげることができました。これは、京都大学という素晴らしい研究環境によるものと感謝しております。

さて、私は京都大学で老年医学、老年学をさらに発展させるべく尽力して参りました。また、日本学術会議臨床医学委員会老化分科会より公表された第21期、

巨額研究費集中投下に懸念

京都高度技術研究所 産学公連携事業本部
京都市ライフィノベーション創出支援センター支所長

岩田 博夫



平成27年3月31日付をも

ちまして定年退職いたしました。45歳で京都大学に戻ってきたときに、学生時代の顔なじみの理化学機器の業者の方から、「先生の学生の時は皆さん貧乏でした。今は違いますよ。先生には数百万円の研究費しかないんですよ、お隣の先生は1億円の研究費ということですよ」と言われました。現役の時には研

第22期の提言作成にも携わり、老年医学の重要性を啓発すべく努力してきましたが、40年以上の歴史のある老年医学講座がなくなったのは大変残念であります。まさに日本は世界一の超高齢社会であり、これからも世界の高齢者医療をリードしていかなければなりません。提言にもあるように、人口構造が変われば、疾病構造が変わり、疾病構造が変われば、医療需要が変わり、医療需要が変われば、需要に合った医療体制の整備が必要となるのです。大学病院だから、高度先進医療、臓器別医療だけやっていたらよいという時代ではないと思います。

最も大きな老年医学に対する誤解は、どの診療科においても高齢者の割合が増え、高齢者を診療している

今後京都大学大学院医学研究科、芝蘭会会員の先生方には大変お世話になるかと存じます。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「FIRST」を制度設計された方は、くだらない論文を多数書くよりも優れた論文1報の方に価値があると言われるかもしれませんが、玉石混交の110,000報の中には必ず玉があるはずで、さらに110,000人の学生に満足に研究指導できない環境を提供したことはもって罪深いことだと思います。

時々指摘されることですが、私も研究不正の遠因として巨額の研究費の集中投下があると思います。巨額の研究費は麻薬のようなもので、一度手を付けるとやめることができない状態になると思います。最後に複雑な気持ちの一言「私の所長在任中、厳しく言わなくても研究費の不正使用に手を染めた所員はいませんでした。所員の方々、また、関係者の方々、深く感謝いたします。」

研究成果活用し社会に貢献

物質・細胞統合システム拠点
特定拠点教授

中辻 憲夫



て留学して、両生類よりは人間に近いマウスを使った研究を始め、やがて帰国して自分自身の研究室を持った時には、応用にもある程度つながる研究テーマを選ぶことになった。

マウスES細胞と生殖細胞の研究を続けていたが、サルES細胞株の樹立を製薬企業との共同研究で成功したところに、京大再生医科学研究所および医学研究科に着任した。

再生医学の基盤作りという、応用目的を念頭に置いた基礎研究を進める研究所において、私は自分の研究者としての経験と興味に適合した領域である、医学応用に役立つ基礎研究のために存分に腕を振るえる場を得たことになる。

京大では、日本国内でヒ

私の科学者としてのキャリアは、基礎生物学の研究として始まった。京大理学部と理学研究科では、カエルなど両生類の発生生物学という、全く基礎の研究から始めた。

その後、学術研究のメッ

カである国立遺伝学研究所の教授に就任したあとも、

救急医療の現状など学ぶ



和やかに進められた和歌山支部総会

【和歌山】

平成27年2月15日、日本赤十字社和歌山医療センター本館12階にて、芝蘭会和歌山支部総会が開かれました。初めに、多目的ホールにて、京都大学大学院医学

研究科初期医療・救急医学分野教授の小池薫先生による「救急医学・救急医療に関する近況について」と題された学術講演が行われました。以下ではその講演内容を紹介させていただきます。

救急医療は社会のセーフティネットのひとつに組み込まれていることから「医の原点」とも呼ばれ、多彩な傷病・患者が存在し、どこでも通用するユニバーサルモデルはないことが特色として挙げられます。例えばアメリカでは、ER（救急救命室）が24時間365日全ての救急患者を受け入れ、ERドクターによって全ての科にまたがる診断を行い、必要に応じて各専門医に受け渡すといったシステムをとっています。日本では、患者を重症度に応じて3段階に分けて対応しており、それぞれ初期、二次、三次救急医療と呼んでいます。初期救急医療では、入院の必要がない帰宅可能な患者を対象としており、主に内科・外科を診療科目としています。二

次救急医療は、入院治療を必要とする患者に対応しており、三次救急医療では、二次救急では対応しきれないようなさらに重症の患者が対象となっています。しかしこれらの区別も地域・自治体によつてさまざまであり、二次救急は三次救急の患者以外全てを受け入れるとされているため、各病院の診療可能な範囲で受け入れるべきとなつていたり曖昧なものであるのがこれらの機関の一元化が求められています。

また、現在の救急医療の問題のひとつに高齢者の搬送の増加があり、その数はこの10年で約1.5倍にも膨れ上がっています。高齢者の搬送をスムーズに行うための対策として、救急医療情報キットと呼ばれるツールがつけられています。これは、患者の持病やかかりつけ医などの情報を専門の容器に入れ保管しておくことで、救急隊員の迅速な処置・判断に役立ち、さらなる認知と普及が求められています。

他の問題としては小児救急医療の需要増加が挙げられます。小児救急では患者家族が担当に小児科医を希望することが多いので、小児科医にかかる負担が大変重くなっています。その対処法としては、他の科の医師が担当することに対する理解を患者家族から得ること、小児科医と救急医間の相互研修をすすめることが言われています。また、電話相談事業を通じた対応にも力が入られています。救急医療にはさまざまな問題が存在しています。が、各病院がそれぞれの地域・住民のニーズに応えるための努力を絶えず続けることが重要です。また、救急専門医、救急救命士と他の科の医師間の円滑な情報交換も大切であると述べられています。（文責：2回生 朴剛史）

総会後に健康科学フォーラム 平家先生と厚労省の矢野先生講演



東京支部総会に出席の皆さん

【東京】

平成27年1月10日（土）、東京の学士会館において、平成26年度「芝蘭会東京支部総会」ならびに第13回「京都大学健康科学フォーラム」が開催されました。

総会は二木隆先生、大高道也先生の司会のもと、

と、東京支部支部長である日野原重明先生のご挨拶があり、ご逝去された会員の方々に偲ぶ黙祷の後、平成26年度事業報告、会計報告（六反田亮先生）、平成27年度事業計画が協議・承認され、京都大学医学部附属病院副院長の平家俊男先生

から芝蘭会本部を代表して挨拶・報告が行われました。次に、2012年1月に発足した「京都大学同窓会東京支部連絡会」に関して、同連絡会の大高道也代表幹事から、今年4月に、山極壽一総長をお招きして「第3回連絡会議」及び「第1回交流会」が開催されるので、芝蘭会東京支部としてご協力をお願いしたいとの報告・提案がなされ、全会一致で了承されました。日野原支部長からも支援するとの言葉がありました。

総会の後、「京都大学健康科学フォーラム」に移り、平家俊男先生（京都大学大学院医学研究科発達小児科学教授）、及び厚生労働省（厚労省）の医系技官で環境省・環境保健部特殊疾病対策室に勤める矢野好輝先生

による講演が行われました。一つ目の講演は、平家俊男先生による「発熱性疾患治療の新展開」です。ツッドサイドとベンチサイドの連携」と題されたものでした。内容は主に自己炎症性疾患と新生児医療・発達障害の二つにわかれていました。

初めに、自己炎症性疾患の概念についてのご説明がありました。自己炎症性疾患とは自然免疫制御異常により発症する炎症性疾患のことです。自己炎症性疾患の仕組み、種類の説明後にはクイオリン関連周期熱症候群（CAPS）を例にとり、軽度から重度な症候例の説明、概説が行われました。近年、年間出生率が下がっている中、低出生体重児が増加しているとのことです。これには妊婦

の栄養摂取量の不足、母体の高齢化、生殖補助医療の普及により新生児死亡率が低下したことなどが、原因として考えられます。そして妊娠22〜23週で生まれた新生児は24週で生まれた新生児よりも精神発達障害のリスクが高まる傾向にあることがわかってきたようです。また発達障害を持っているのは子供だけでなく大人でもあります。例として子供には自閉症、アスペルガー症候群、大人には注意欠陥・多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）が挙げられます。このように発達障害を持った方が増加している社会で、個々の特性に応じた配慮が日常的な育児や教育、対人関係において大切になつていくとおっしゃって平家先生の講演は締めくくられました。

二つ目の講演は、矢野好輝先生による「現在の厚生行政の課題・展望について」と題されたものでした。矢野先生は厚労省の医系技官として活躍されていますが、仕事を通して学んだことについてお話しがありました。そして、厚生行政の今後の課題・展望について、フリーアクセス、High quality、Low costの三つ全てを実現することはできないというオレゴン・ルールの考え方に則り、行政の観点からの説明が行われました。最後に京大と厚労省の関係についてのお話があり、京大と厚労省の人事交流を増やすことや、京大職員が審議会の委員などとしても行政に参画すること、また草の根レベルの交流をしていくことを提案して講演を締めくくられました。

講演後、別室で記念撮影を行い、懇親会が大高道也先生の開会のごあいさつの後、日野原重明先生の乾杯で始められました。懇親会中は初めて出席される先生方の自己紹介や、近況報告が行われました。多くの先生方がわれわれ雑誌部員にも気さくに声をかけてくださり、興味深い話も伺うことができました。

会は終始和やかな雰囲気が進み、宴もたけなわとなり、会は惜しまれながらも二木隆先生のごあいさつで締めくくられ、解散となりました。最後になりましたが、このような素晴らしい会にお招きいただいたことに感謝の意をもって東京支部総会の報告を終わらせていただきます。

（文責：5回生 大植啓史）

芝蘭会費納入は 自動振替で

平成17年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引き落とし」を採用させていただきます。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止にもつながります。

ぜひ、ご利用いただきたくお願い申し上げます。

手続き等については、
芝蘭会事務局
(TEL 075-751-2713)
までお問い合わせください。

71回・2014(平成26)年度版

芝蘭会 会員名簿

71回・2014(平成26)年版

芝蘭会会員名簿 刊行!

名簿作成にご協力いただき、ありがとうございました。

この度、平成26年12月に芝蘭会会員名簿を刊行いたしました。名簿作成にあたり、会員の皆様から快く異動情報等をお寄せいただき感謝申し上げます。会員名簿をご希望の方は、芝蘭会事務局(075-751-2713)までお問い合わせ下さい。

- 会員名簿：A4判、890頁
- 会員頒布代：一部 5,400円（消費税を含む）
（但し、会費納入者に限る。その他は10,800円）
- 送料：700円

人 事 異 動

発令年月日	氏 名		異動内容
H27.2.1	木内 泰	昇任	神経・細胞薬理学助教より 同准教授へ
H27.2.1	篠原 尚	採用	虎の門病院消化器外科医長より 消化管外科学准教授へ
H27.2.28	岩江 荘介	辞任	医の倫理委員会事務局特定講師より 宮崎大学准教授へ
H27.2.28	菅井 学	辞任	臨床研究総合センター講師より 福井大学医学部生命情報医科学講座教授へ
H27.3.1	牧島 秀樹	採用	米国クリーブランドクリニックプロジェクトスタッフより 腫瘍生物学講師へ
H27.3.31	長田 重一	定年退職	医化学教授より 大阪大学特任教授へ
H27.3.31	河野 憲二	定年退職	認知行動脳科学教授より 京大国際融合教育研究推進センター（LIMS）研究員へ
H27.3.31	大森 治紀	定年退職	神経生物学教授より 京大国際融合教育研究推進センター（LIMS）研究員へ
H27.3.31	福山 秀直	定年退職	脳機能総合研究センター教授より 京大国際融合教育研究推進センター（LIMS）研究員へ
H27.3.31	小川 正	辞任	認知行動脳科学准教授より 京大国際融合教育研究推進センター特定専門業務職員へ
H27.3.31	中村 和弘	辞任	学術融合教育研究推進センター准教授より 名古屋大学教授へ
H27.3.31	千葉 勉	定年退職	消化器内科学教授より 京大総合生存学館特定教授へ
H27.3.31	坂田 隆造	定年退職	心臓血管外科学教授より 神戸市立医療センター病院長代理へ
H27.3.31	新田 隆士	辞任	肝胆膵・移植外科学講師より 三菱京都病院医師へ
H27.3.31	門脇 則光	辞任	血液・腫瘍内科学准教授より 香川大学教授へ
H27.3.31	塩井 哲雄	辞任	循環器内科学講師より 京都女子大学教授へ
H27.3.31	森 章	辞任	肝胆膵・移植外科学講師より 北野病院外科副部長へ
H27.3.31	藤林 俊介	辞任	整形外科科学講師より 運動器機能再建学講座（寄附講座）特定教授へ
H27.3.31	阿部 誠司	辞任	次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点（AK）特定教授より 同研究員へ
H27.3.31	真下 知士	辞任	附属動物実験施設特定准教授より 大阪大学へ
H27.3.31	林 晶子	辞任	集学的がん診療学講座特定准教授より 大津赤十字病院副部長へ
H27.3.31	大守 伊織	辞任	医の倫理委員会事務局特定准教授より 岡山大学へ
H27.3.31	清水 淳	辞任	次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点（AK）特定准教授より ㈱カイオム・バイオサイエンス社員へ

発令年月日	氏 名		異動内容
H27.3.31	戸村 道夫	辞任	次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点（AK）特定准教授より 大阪大谷大学教授へ
H27.3.31	陣上 久人	辞任	医学教育推進センター特定教授より 医学研究科研究員へ
H27.3.31	恒藤 暁	辞任	集学的がん診療学講座特定教授より がん薬物治療科特定教授へ
H27.3.31	中原 俊隆	辞任	国際保健学健康政策・国際保健学教授より
H27.3.31	山崎 新	辞任	健康解析学医療疫学准教授より 国立環境研究所環境疫学研究室長へ
H27.3.31	寒水 孝司	辞任	健康解析学医療統計学准教授より 東京理科大学准教授へ
H27.3.31	野本 慎一	定年退職	人間健康科学系専攻教授より 滋賀県立リハビリテーションセンター所長へ
H27.3.31	荒井 秀典	辞任	人間健康科学系専攻教授より 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター副院長、老年学・ 社会科学研究センター長へ
H27.3.31	中辻 憲夫	定年退職	再生医科学研究所、物質—細胞統合システム拠点教授より 物質—細胞統合システム拠点特定拠点教授へ
H27.3.31	山根 寛	定年退職	人間健康科学系専攻教授より
H27.3.31	岩田 博夫	定年退職	再生医科学研究所教授より 京都高度技術研究所 産学公連携事業本部京都市ライフイノベーション創出支援センター支所長へ
H27.4.1	ALTMANN Christian Friedrich	採用	医学教育推進センター特定准教授より 同准教授へ
H27.4.1	栗本 一基	昇任	機能微細形態学助教より 同准教授へ
H27.4.1	松本 繁巳	採用	臨床腫瘍薬理学講座特定准教授より 腫瘍薬物治療学准教授へ
H27.4.1	宮田 淳	昇任	精神科神経科助教より 同講師へ
H27.4.1	田浦康二郎	昇任	肝胆膵・移植外科学助教より 同講師へ
H27.4.1	河野 雅之	採用	健康解析学薬剤疫学助教より 同特定講師へ
H27.4.1	國澤 進	採用	立命館大学助教より 健康管理学医療経済学特定講師へ
H27.4.1	藤林 俊介	採用	整形外科科学講師より 運動器機能再建学講座特定教授へ
H27.4.1	後藤 公志	採用	整形外科科学助教より 運動器機能再建学講座特定講師へ
H27.4.1	小林 果	昇任	健康要因学環境衛生学特定助教より 同特定講師へ
H27.4.1	金井 雅史	昇任	臨床腫瘍薬理学・緩和医療学講座特定講師より 同特定准教授へ
H27.4.1	田中 司朗	昇任	健康解析学薬剤疫学講師より 同准教授へ

会 員 訃 報 （敬称略）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

石井 章次	昭和 14 年卒	平成 26 年 10 月 31 日	ご逝去
長谷川豊男	昭和 16 年 12 月卒	平成 27 年 3 月 29 日	ご逝去
山本 正敏	昭和 18 年専卒	平成 27 年 2 月 21 日	ご逝去
芳我哲次郎	昭和 22 年卒	平成 27 年 2 月 12 日	ご逝去
村上 創	昭和 22 年卒	平成 26 年 12 月 30 日	ご逝去
安井 晃一	昭和 22 年卒	平成 27 年 2 月 7 日	ご逝去
熊沢 安正	昭和 22 年薬卒	平成 24 年 4 月 14 日	ご逝去
山田 正	昭和 23 年卒	平成 27 年 3 月 16 日	ご逝去
塚谷 博昭	昭和 23 年薬卒	平成 26 年 10 月 18 日	ご逝去
太田 美実	昭和 24 年専卒	平成 27 年 1 月 16 日	ご逝去
藤本 修	昭和 24 年専卒	平成 27 年 1 月 30 日	ご逝去
伊藤 亨	昭和 26 年卒	平成 27 年 3 月 29 日	ご逝去

高宮タカヨ	昭和 26 年専卒	平成 27 年 2 月 8 日	ご逝去
本田寅二郎	昭和 26 年専卒	平成 27 年 3 月 13 日	ご逝去
未包 慶太	昭和 27 年卒	平成 27 年 3 月 7 日	ご逝去
新井 有治	昭和 28 年卒	平成 27 年 2 月 11 日	ご逝去
鐘ヶ江和夫	昭和 28 年卒	平成 27 年 2 月 8 日	ご逝去
花房 節哉	昭和 28 年卒	平成 27 年 3 月 14 日	ご逝去
坂本 彬	昭和 29 年卒	平成 27 年 5 月 12 日	ご逝去
鈴木 司郎	昭和 29 年卒	平成 27 年 6 月 8 日	ご逝去
中村 徹	昭和 29 年卒	平成 27 年 6 月 9 日	ご逝去
山本陽一郎	昭和 29 年卒	平成 27 年 3 月 2 日	ご逝去
内山 輝美	昭和 30 年卒	平成 27 年 4 月 5 日	ご逝去
川端 利彦	昭和 30 年卒	平成 27 年 3 月 24 日	ご逝去

北山 太一	昭和 32 年卒	平成 27 年 4 月 1 日	ご逝去
西岡 一	昭和 33 年薬卒	平成 26 年 12 月 2 日	ご逝去
廣瀬 邦彦	昭和 43 年卒	平成 27 年 5 月 5 日	ご逝去
金澤 治	昭和 52 年卒	平成 27 年 3 月 16 日	ご逝去
河野 義博	教室会員 解剖 2	平成 26 年 12 月 15 日	ご逝去
林 要	教室会員 病理学	平成 25 年 3 月 16 日	ご逝去
藤浪 隆夫	教室会員 病理学	平成 27 年 1 月 20 日	ご逝去
松井 信子	教室会員 内科 1	平成 26 年 11 月 26 日	ご逝去
坂井 信義	教室会員 内科 2	平成 27 年 1 月 30 日	ご逝去
播岡 敏弘	教室会員 内科 2	平成 27 年 1 月 29 日	ご逝去
谷口 盾一	教室会員 皮膚科	平成 27 年 4 月 8 日	ご逝去
日沼 頼夫	教室会員 ウイルス研	平成 27 年 2 月 4 日	ご逝去

管理
総務課長
事務局長
芝蘭会事務局
濱崎康博

吉平智博（2 回生）
副鈴（以上 3 回生）
原聡真、朴 剛史、蔡
梅本大地、井上大志、菅
中田 愛（以上 4 回生）
高屋龍生、西川裕太、
（以上 5 回生）
坂本 慧、宮崎 規 晶
大植啓史、小杉大輔、
森山太陽、赤埴未宝、
（以上 6 回生）
鶴田将史、真辺 諄

部 員

顧問 高折晃史

芝蘭会雑誌部

介、園部 誠、阿部 恵

征良、豊國伸哉、山田 圭

委員 斎藤信雄、岩田

委員長 高折晃史

芝蘭会報編集委員会

原 稿 募 集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場
であります。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介（自
薦・他薦）及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿
ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、
編集委員会でご決めさせていただきます。

芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成 17 年 4 月からの「個人情報保護法」の全面施
行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せ
られました。つきましては会員の連絡先等のお問い合
わせは、必要理由等を明記の上、郵便または FAX
により事務局までご送付ください。電話でのお問い合
わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。
（FAX 075-752-4015）